

「もしもの時に伝えるシート」の配布について

まず、もしもの時に伝えるシートの配布について

○作成数 25000枚 印刷費は都島区医師会

○当初配布数 14650枚

○周知・啓発方法

①設置によるもの（医療機関、歯科医院、区役所等）

「もしもの時に伝えるシート」を都島区内の医療機関等において区民の方から見えやすい場所に設置する。

②説明、記入補助を行うもの（薬剤師、訪問看護、ケアマネジャー等）

対象の方とお会いする機会に「もしもの時に伝えるシート」の説明を行い、必要に応じて記入補助を行って、お薬手帳・カバーにはさんでもらう。随時、更新された内容がないかを確認し、修正いただく。

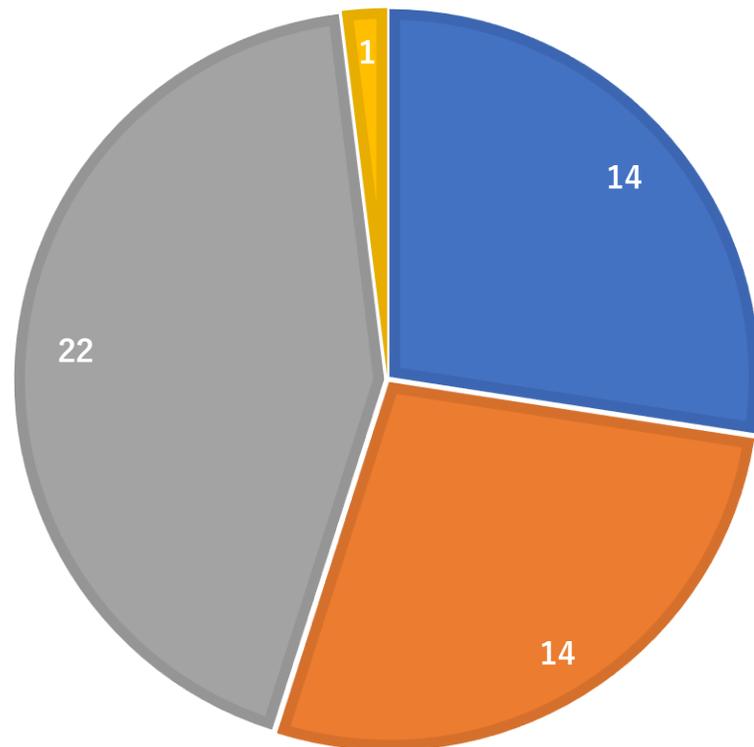
→アンケートも①②別様式それぞれで検証。業務負担にならないよう配慮（概ねで答えていただいていることもあるので、参考数値）。

「もしもの時に伝えるシート」アンケートについて

事業者用アンケートについて

事業所用 アンケート回答数 51件

■ 薬局 ■ 訪問看護ステーション ■ 居宅介護事業所 ■ 地域包括支援センター

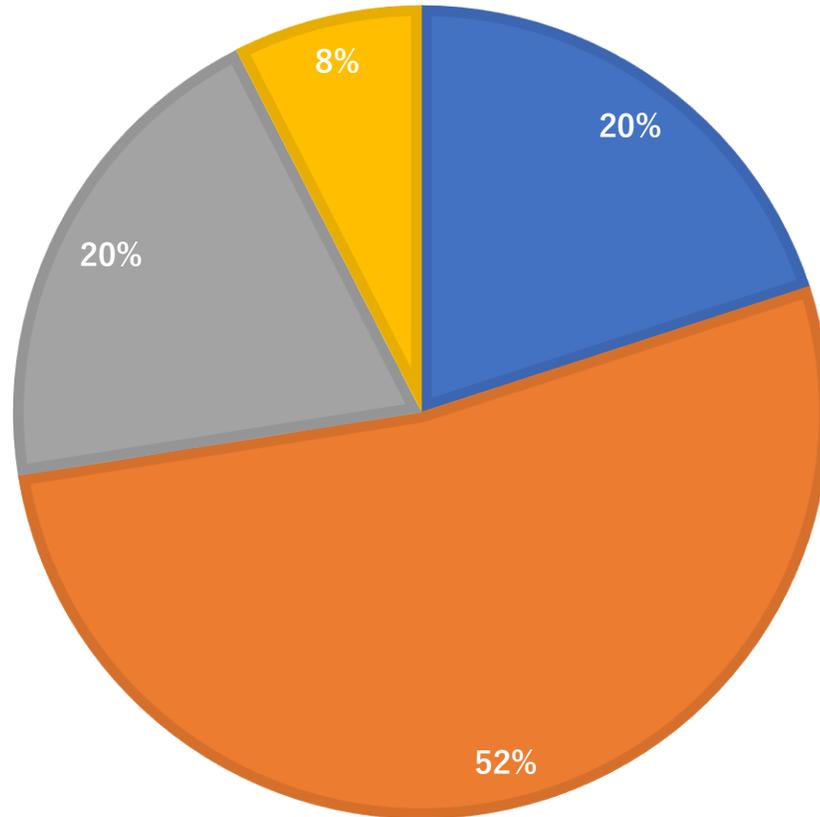


事業所用アンケートより

○配布できた枚数	952枚
・記入した、確認できた枚数	678枚
内訳	
ご本人が記入	209枚
支援者がご本人と記入	326枚
ご家族が記入	143枚
・渡した相手が不明である枚数	20枚
・渡したのみの枚数	254枚
○配布を拒否された方	63枚
○既に所持・記入されていた方	52枚

延命治療の欄の記入について

利用者の反応について最も適当なものを一つ選んでください。 40件の回答



- ほとんどの方がすんなり記入できた
- 記入に困る方が少なからずいた(概ね半数未満)
- 記入に困る方が多かった(概ね半数程度)
- 記入に困る方がほとんどだった(概ね3/4以上)

- ・独居であったり、身寄りと疎遠などの背景のある方の一部は関心を示され、一部の方は投げやりな態度を示された。
- ・まずはお渡ししてしまうことが多いので確認タイミングが計りづらいことがある
- ・疾患上 精神的に不安定な方などお渡しするタイミングを慎重にしている
- ・独居で認知機能の低下の見られる利用者様の情報をとる事が難しかった
- ・「自分の意思表示だから」と記載の支援を訪問看護師が先導してに行うことも躊躇する。
- ・訪問看護が入っている方だったので看護師に相談してと言っていた
- ・どこに保管したか忘れる人がいた。その場で渡しても最初は見るだけで終わり、翌週にもう一度確認して支援することが多かった。意識を持つまで啓発は必要と感じた。他区から問い合わせ。

・意思決定の欄は「自分は〇〇したいが家族はなんて言うか・・・」といった言葉が多かった。これを機会に家族間でも話し合ってもらえればと記載を委ねるが、話し合う合われることなく空白のまま、または手渡したままの状態の方もあった。

・家族の興味が薄い。シートの目的と活用の利便性の説明はした。

・「受診以外は、お薬手帳は持ち歩くことしないどうするねん」 「カバンを持ち歩かない、どうする。常に持ち歩けない」

・項目が多く1人で記入するにはハードルが高く感じた。

・延命治療について悩まれる。

・難しい問題でわからないと悩んでられた。

・人工呼吸、心臓マッサージをどうするか、意思が決まっておられず悩んでおられた。

・利用を前向きに検討したいとの反応だった。

・なし（2件）

ご利用者から意見としてお聞きしたこと等があればご記入下さい 20件の回答

- ・ちょっと考え始めてみようと思っている人には渡しやすいがそうでない人や本人が意思を伝えられない人の時は勧めにくい。
- ・延命治療については「今はわからない」という声が多かったがもしもの時に持っていれば連絡先が分かるので持ち歩くカバンに入れておくとの声が多くあった。
- ・お薬手帳は普段持ち歩かないので、普段外出で使用するカバンに入れるとの意見
- ・シートの必要性を理解していない利用者がほとんどでした。

- ・シートが大きく 持って歩くのには、かさばると。シール式や、小さいカード型が良いのでは。
- ・似たようなものがあったのにまたかくの？という人がありました。ペットボトルにいれていたものをもっている方でした。
- ・すでにご自身で緊急時の連絡先など明記しておられてあえて必要ないといわれた。
- ・記入するのが大変。・必要な時期が来たら書く。

- ・おおよそ肯定的。
- ・これがあれば安心できるとおっしゃって頂きました。
- ・このシートがあれば安心との声が多かったです。
- ・これを機会に準備しておこうという方が多かったと思う。
- ・とてもいいシートですね。
- ・このような取り組みは良いと思う。老人会とか100歳体操等の参加者にも教えてあげてほしい。
- ・エンディングノートを書いてみたいという方も何人かいた。
- ・ご高齢の方の子供様から介護者に何かあった時に記載を残せてありがたいと意見を頂いた
- ・主治医の先生からこれだけは書いておきなさいと言われて追記した（「片耳が不自由」等）。先生から書き方を言われて嬉しかった。
- ・独居の男性で、心疾患があり。毎日散歩に行かれる方がいつもポケットに入れて持ち歩いておられ、「これがあるから安心」とおっしゃっていた。
- ・考えるきっかけとなった。
- ・なし（3件）

ご意見やお気づきの点があればご記入下さい 17 件の回答

・非常に積極的な方と、書いてみたが目的が今ひとつ理解できない方に分かれる気がしました。認知症や年相応の理解力の低下など考えられるため、連絡先などは初めから、インタビュー形式で記載してあげるといいかと感じた。

・シートは見やすく内容も厳選されており関心のある方には有効だと思う。訪問看護含めた介護サービスを利用されている方は、家族の有無はもちろん、自己決定を表記するには環境や背景も配慮しながらの説明であり、慎重さが求められた。

・まだ活用できた事例がない為、記入していただいたというだけのものになっている。

・手が震える書きづらい 1人ぐらし 認知症も出て来てどこに置くかわからない お薬手帳と一緒にしてて 個人情報にもなるので、抜き差しする手間がイヤと。

・ご自由にお取りくださいの棚に置いてあります スタッフが把握していないだけで 持ち帰ってくださっている患者さんがいるかもしれません。

・保険証がカードタイプになったら、サイズが小さくならないか。

・家族欄記入時は、法的効力があるのかの問いが多かった。（説明はしているが・・・）

・ケアマネジャーや主治医の項目は本人記入が難しかった様子

・連絡先欄に訪問看護の記載欄があったほうが、救急搬送、入院された時に医療機関との情報共有がスムーズになるのでは。

・もっと市民向けの勉強会があってこういったことを考えるきっかけづくりをしてほしい。

・記入後に、薬局でも共有して欲しいと希望するお一人暮らしの方がおられました。患者と薬局をつなぐツールとして良かったと思います。

・何人かの方は区や所のお知らせで知ったという声もあった。

・延命治療や今後のことを考えるよい機会になった方が多かったです。延命治療はみなさん悩まれてました。

・災害、緊急時に必ず準備しないといけないことなので役立つと思いました。

・記入された方は皆様しっかり記入されていました。

・なし(2件)

設置場所用アンケートについて

○アンケート回答数 17件

病院、診療所、歯科医院、地域包括支援センター、区役所

○配布枚数 1204枚

○イベントで配布した回数 19回

イベントで配布した枚数（1204の内数）

みやこじま健康測定会57枚、オンライン健活9枚、百歳体操66枚、エムカフェ9枚、地域の集いの場（認知症カフェ）43枚、認知症予防トレーニング25枚、地域福祉コーディネーター連絡会9枚、西都島地域女性部20枚、男のための座学35枚、男の終活10枚、NTT認知症サポーター養成講座3枚、百歳体操体験会130枚、区民講演会50枚、食生活改善推進協議会集会20枚、民生委員研修会 250枚 など

○対応に困ったこと

なかった 13件

あった 2件

- ・もしもの時に伝えるシートについて知らなかった。
- ・中々受付にてバタバタしている中、説明して配る時間がなかった。

○シートについて、受け取られた方からご意見としてお聞きしたこと等があれば、ご記入ください。

- ・シートが大きい。
- ・スマホに入れられる大きさの方が良い。
- ・財布に入れるには大きい。
- ・安心カプセルとの違いは？
- ・病院にかかっていないのでお薬手帳もっていない。
- ・受診以外ではお薬手帳を持ち歩かない。

- ・友達にも伝えたい。
- ・役に立ちそうと言われた。
- ・便利で良いとコメントあり
- ・とてもいいシートだと思います。

○シートについて、ご意見やお気づきになられた点があればご記入ください。

・シートを渡した時は、使ってみたいという人が多かったが、1か月後に聞き取りをすると使っている人が少なかった。

- ・シートを受け取っても書くに至っていない。
- ・知らなかった。
- ・ものが何かわかりませんでした。すいません。
- ・配るだけでは、シートの活用につながりにくい。

- ・素晴らしいと思います。